岐阜大学附属図書館報
ISSN 0915−8960
Zun dō
寸 胴
THE GIFU UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN
第21号 1997. 2

目　次

岐阜大学の改革と人文社会系図書の充実問題　宮野　雄一 …… 1
館蔵資料紹介No.12
　維新前後の英和辞典・和英辞典　佐藤　貴裕 …… 3
1997年度　購入雑誌変更リスト …… 5
医学部分館を利用して　楊　文毅 …… 7
幅広い要求に応える図書館　釜淵　幸司 …… 7
図書館員から一言　大西　隆司 …… 8
　丸毛　りか …… 8
お知らせ …… 8

岐阜大学の改革と人文社会系図書の充実問題

宮　野　雄　一

本学に赴任して間もない頃、韓国の土地問題・政策調査に便乗して参加したことがある。調査も終わりくつろいだ場で、日韓の大先生方が、研究者に必要なものは何かという議論になった。韓国近代都市史研究の泰斗であるＳ先生が、「一に執念、二に資料、三に体力」と言い切られたのが今でも鮮やかに記憶に残っている。真理の究明にかける主体的な努力と志、並びにそれを支える客観的な研究手段・研究対象といいかえれば、他の学問にも共通する条件であろうか。ところで、主体的努力は各教官の責任としても、数年前の教養部のアンケート調査では、研究手段（研究設備、サービス、校費等）の保障がまったくない場合には、文系・理系とも全員が「全く研究できない」「研究上非常に支障がある」と答えている。つまり客観的な研究手段の整備は、自助努力では困難であり公費による整備が不可欠である。図書館整備はその中心的な課題の一つであり、とくに図書が主要な研究手段である文系にとっては、図書充実は決定的に重要な課題である。他方で、教育という面でも、一般教育、専門教育の学生用図書の充実問題があり、また、一般市民に開かれた生涯学習の場としての大学ーとくに図書館整備の持つ意義は近年ますます重要になりつつある。

ところで、岐阜大学では96年教養部が廃止されるとともに、地域科学部が新設された。また生涯学習に対応した各種の改革も同時進行中である。そこで、このような大学改革にともなう図書館整備の課題を、主に人文社会系図書の充実問題に焦点を絞り考えてみたい（これは筆者が両方の部局に関わりかつ人文社会系であるための限定であり、もちろんこれ以外に自然系の基本図書整備や電子情報化等の重要課題があることをお断りしておきたい）。なお、図書館の自己評価報告書も人文社会系図書の未整備を指摘し、全学的な問題として位置づけている。

１．新設学部と人文社会系図書整備

新設された地域科学部（地域政策、構造、環境、文化の４講座）は、従来の学問区分では対応しがたい課題に応えるための人文社会系を中心とした文理融合型学部とされている。この分野では全国初めての学部であり、理科系の比重の高い岐阜大学にとっては初めての文系的な学部である。このため図書に絞ってみてもほとんど未整備な状況であり、図書充実は今後の最重要課題のひとつである。便宜上、文理融合的な領域も含めて人文社会系図書という表現を使えば、参考図書、文献目録等の２次資料、基本的な雑誌、書籍、行政資料等の共同利用性の高い人

文社会系図書が、絶対的に不足している。幸い昨年度、関係者の格別な努力で文部省から新設学部の学生図書用に特別に配分された。また、学長から学内教育研究特別経費による人文社会系図書整備への配慮も得た。

しかし、筆者が社会系のグループの必要図書リストをアンケート調査に基づき作成した経験では、学生用基本図書に限ったリストでも絶対額不足（必要額の１割に満たない）であり、長期的に予算上の援助がない限り、学部としての教育に最低限必要な水準に達しないと思われる。

各教官の専門的研究用の図書は除外してもこのような実態である。なお、是非は別として、本学では各教官の研究用図書は各自が研究費で充実する建前であり、しかも研究用図書を学生用図書としても共用するため図書館への早期納入が求められている。これは図書館予算の貧困による苦肉の策というべきで、学生用図書費の貧困を教官の研究図書費で補充し「効率化」を図ることを意味する。これを逆用すれば、新設学部の学生用図書も教官の研究費で補充すればよいという議論もあり得る。だが、これは教官研究費の実態を無視した非現実的な議論である。第一に新学部の各教官予算は以前より絶対額で減少している。第二に、人文社会系教官の場合は、本来図書館が共同購入すべき雑誌、２次資料等の購入に研究費の多くを支出し、研究用図書（雑誌、２次資料すら）の多くは私費購入で、研究室を訪れた学生に私費購入図書を貸し出している、というのが実態である。事態はもっと深刻なのである。科研費あるいは民間外部資金は、経常的でなく多くが１～３年に限定された臨時的・投資的予算の性格をもつため、逐次刊行物購入を除き研究教育の継続性を保障する図書整備の手段としては、やはり限界がある。しかもこれらの資金は、本来、特定の研究目的に使途が限定され、一部の専門家を対象とする高度に専門的な文献が中心であり、そもそも一般的な学生用図書への転用は困難である。こうして、人文社会系図書の充実は、それ自体として独立に保障される必要があるといえる。

２．一般教育・生涯学習と人文社会系図書整備

91年に専門教育と一般教育の区分が廃止され、事実上全国立大学の教養部が廃止された。しかし、学校教育法は、大学を学問の研究と一般教育及び専門教育の三機能を統一して果たす機関として規定し、また新設置基準でも一般教育を専門教育と並ぶ教育の二つの柱として明確に規定している。

現代においては一般教育の意義と必要性は、発足当時より高まったともいえる。第一に、一般教育それ自体の目的が、本来は「自然と人生とに対するあらゆる生活態度、精神態度の培養」、学問や職業上の狭い専門・分業の弊害を克服し人間性の全面的な発展を通じた「人間の社会的連帯の回復」等、世界観と批判能力をもった「よき市民」の教育にあるからである。これらは、現代では一層重要性と輝きを増し、生涯を通じて追求される普遍的な目的であろう。第二に、専門教育の側からの一般教育の意義の再認識である。一般教育は、職業人の視野を広げ、独創性の基礎をつくるという意味で、専門教育を真の専門教育とするのであり、一般教育と専門教育は相補関係にある。一例であるが91年の旧制八大学工学部長懇談会報告書は、専門教育の立場からも、日本の学問発展とその専門化のありかたが「科学技術を専門とする者にとって自分を見失いやすい危険を大きくして」いることを警告し、「自己の批判あるいは他分野専門者との対話を行う資質を養う」ためにも、非専門分野に関する一般教育が必要としている。

これは図書に関しては、第一に一般教育は生涯学習と共通した目的を持ち、一般市民向け図書の充実という観点からも、また第二に、学生（多くは理系専門である）の一般教育の充実という観点からも、人文社会系図書の充実が不可欠であることを意味する。人文社会系図書はこのように汎用性・共同利用性を持つため、公費での整備が不可欠である。他方で、汎用性から学生用図書のストックが十分あれば、或程度の相互の流用は可能である。しかし、毎年の学生用推薦図書等で実際に購入できるのは基本図書のせいぜい１～２割程度であり、しかも予算の頭打ちと書籍費単価上昇から年々実質的に購入図書は減少する。そもそもストックの貧困化が極限に達しているからこそ教官研究図書を学生用図書にも転用する、という政策が採られているのであり、それも先述のように研究費自体の不足から限界がある。それ故、図書館の自己評価報告書が、人文社会系図書の未整備と充実の必要性を指摘しているのは、まさに状況を正確に把握し時宜を得たものといえる。こうして、新設学部の研究教育体制の確立、一般教育の充実（それを通じた専門教育の発展）、一般市民の生涯学習への対応という点から、人文社会系図書の総合的拡充は焦眉の課題であるといってよい。

（みやの　ゆういち：地域科学部助教授）

館蔵資料紹介　No. 12

維新前後の英和辞典・和英辞典

佐　藤　貴　裕

英和辞典は、日本人がもっとも利用する辞典のひとつである。とくに、大学受験の準備を少しはじめにやった人にとっては、ひょっとしたら一生のうちで一番引く機会の多かった辞典ということになるかもしれない。

そのような英和辞典だが、幸いにも附属図書館では、日本が本格的に英語と付き合わざるをえなくなった維新前後のものを数点所蔵している。つまり、英和辞典の先祖のオリジナルを見て触れることができるのである。

ここでは、英和辞典一つと、あわせて和英辞典一つを紹介して簡単な案内役をつとめることにしたい。

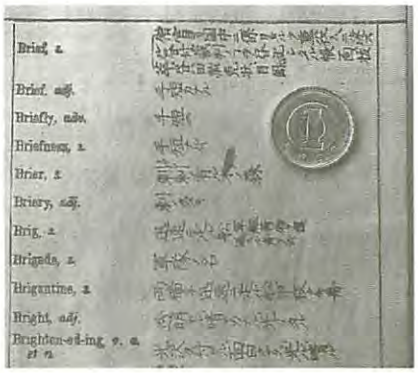
†

英和対訳袖珍辞書* 慶応３（1867）年刊

安政６（1859）年、江戸幕府は、堀達之助を、蕃書調所の対訳辞書編集の主任に任命した。達之助は、ペリーが来航したときにも活躍した有能なオランダ語通詞である。彼の仕事は、H.ピカードの『新ポケット英蘭蘭英辞典』のオランダ語を日本語に訳して英和辞典を編纂することだった。辞典の編纂としては、おそらくもっとも簡便な方法だったろうが、当時の日本の洋学事情からいって精一杯のことだったろう。西周や箕作麟祥らの協力も得、『英和対訳袖珍辞書』として文久２（1862)年に初版 200部を刊行することができた。収載語数約３万５千、横本953ページ。遠目には本というより枕のようみえるものである。

本書の学術的意義はその流布にある。世界初の英和辞典には『諳厄利亜(ｱﾝｹﾞﾘｱ) 語林大成』(文化８〈1811〉年）があるが、出版されなかった。が、『英和対訳袖珍辞書』は、文久２（1862）年の初版についで何度か版を重ねている。本館所蔵書もその再版のひとつである。また、明治中頃までの後続の英和辞書にもかならずといってよいほど参照された。本書は、いわば、もっとも流布した英和辞典の最古のものということになる。

また、本の作り方という点からみてもなかなか面白い。一つは、英語は横書きだが、日本語は縦書きになっていることで、もう一つは木版摺りであることである。現代の横書き・活字になれた目からすれば、奇異なものに見えるが、当時の日本語や出版事情を考えれば不思議なことは何もない。日本語は縦書きする以外になかったし、印刷方法もごく一部の例外をのぞけばすべて木版だったからである。木版とは版画の要領で字を彫り、和紙に摺りだすものである。当時の技術は最高水準にあったから、細い線や曲線も手書きとみまがうほど精巧に彫ることができた。それをみるだけでも本書をみる価値があるだろう。もちろん、製本も、当時もっとも一般的だった袋綴じである。



†

和英語林集成** 明治５年刊

本書は、ヘボン式ローマ字でも有名なアメリカ人宣教医・J.C.ヘボンが編集したものである。初版は慶応３年刊だが、本館所蔵書は第２版である。

上海で印刷されたこともあって、『英和対訳袖珍辞書』とは異なり、活字を組み、やや厚手の洋紙の表裏に印刷した、本格的な洋書の作りになっている。日本語もローマ字で綴られている。ただし、第２版の綴り方は、ズヅをDZに、キャをKIYAとするなど、のちのヘボン式ローマ字とは少し違った書き方をしている。

本書の学術的価値は、辞典なら当然のことかもしれないが、内容、あるいは内容を作りだした編纂法にあるといってよい。

とくに、もとになる日本語をかなり徹底して採集・選択していることが注目される。まず、ポルトガルの宣教師たちが編纂した『日葡辞書』(1603年刊）とメドハーストの『英和和英語彙集』(1830年刊）が基礎になっているといわれている。また、江戸時代には節用集とよばれる国語辞典・用字集がさかんに刊行されていたが、そのようなものからも採集した語もあるという。が、それにもまして特徴的なのは、口頭語を積極的に採り入れたことかもしれない。宣教に来日する後続の人々が日本語会話で不自由しないようにとの配慮もあり、また、医師として老中から乞食までの人々を診察した経験もいかしただろう。もちろん、彼の日本語の教師となった人々の協力も少なくなかったはずである。

そのように配慮された口語のさまを見てみよう。

KOKE,コケ, 鱗, n. Scales of a fish or serpent.
Syn.UROKO.

ここで注目したいのはコケを鱗と捉えることである。現代共通語の使い手なら何かの間違いだと思うだろうが、とりたてて誤りというほどのことでもない。鱗をコケというのは、実は、東北・関東・中部東部ではごく普通のことなのである。本館3階にある『日本言語地図』などで確認すれば一目瞭然、西日本のウロコに対抗する一大勢力だったことが知られる。ヘボンは、彼の活躍した関東の口語（方言）を自分の辞典に入れたのである。

つぎに少しこみいった例を。「笑う」「違う」などは西日本ではワロータ・チゴータとなり、東日本ではワラッタとチガッタという形になる。これをどのように扱っているだろうか。

CHIGAI,-o or-au, -ota-or-atta, チガフ, 違, i.v. To be different,to mistake, （以下略）

チゴータという西日本の形も載せている。これはどういうことなのか。東日本のコケを載せたのだから、こちらも東日本の形で統一してもよさそうだが、これもやはり関東、ことに江戸で話されていた口語のありようを反映したものである。

ただしそれは教養のある人々の口語である。彼らは、時に西日本の形を使った。打消の助動詞に東日本のナイではなく西日本のヌ（ン）を使い、形容詞の連用形に東日本のハヤク（早）ではなく西日本のハヨーを使うのである。おそらく、西日本の形を品のよいものと見ていたのだろう。このことは現代共通語の丁寧な表現にも影響をあたえた。丁寧の助動詞マスにはナイではなくンがつくし、オハヤクゴザイマスとは言わずオハヨーゴザイマスという。同様に、ワラウ・チガウなどのワ行五段活用にテ・タ・タリがつくときも、ウ音便形を使うことがあったのである。

『和英語林集成』では、このようなやや込み入った口語の状況まで踏まえて編纂されていたと思われる。ただし、いまみた活用形の表示は初版と第2版だけに見られることである。第3版は一つの到達点として定評があり、ヘボン式ローマ字もここから出ているが、活用形表示は削られてしまったからである。こんなところにも、初版・第2版の存在意義はある。

†

以上で紹介を終えたい。ほかにも紹介したい英和辞典はあるが、割愛した。いずれも、本学にしかないというような稀覯本ではないが（もちろん、どこにでもあるというものでもない)、当時の英学の盛行や出版文化の一端を知る手掛かりとしての価値はあろう。

そしてまた、そのような価値よりも、岐阜大学に身をおくものとして、館蔵資料になにがしかの興味をもっていただきたいというのが本当のところである。英和・和英辞典と本稿がそのきっかけになれば幸いである。

（さとう　たかひろ：教育学部助教授）

（配置場所：特別資料・フィルム庫*833/51,**833/Hep）

1997年度　購入雑誌変更リスト

〈新規購入雑誌〉

誌名	配架
アジア経済（アジア経済研究所）	地政策
インターフェース＋別冊	総情セ
英語教育（大修館書店）	地環境
教育科学・社会科教育	教法経
教育心理学研究	教ＣＲ
教育方法学研究	教ＣＲ
経済（新日本出版社）	農農経
経済セミナー（日本評論社）	教法経
月刊しにか（大修館書店）	教哲学
現代教育科学（明治図書）	教教育
交通公社の時刻表（JTB）	留学セ
小児科診療（診断と治療社）	教治療
小児科臨床（日本小児医事）	教治療
小児内科（東京医学社）	教治療
世界週報	教法経
日本労働研究雑誌（日本労働協会）	地政策
農民	農農経
用水と廃水	図化学
DOS/V Magazine（JPN）	総情セ
Eye - Com（JPN）	総情セ
Internet Magazine（JPN）	総情セ
Look Japan：日本瞭望（CHI）	留学セ
Maclife（JPN）	総情セ
Software Design（JPN）	総情セ
Super Ascii（JPN）	総情セ
TPY-PC（JPN）	総情セ
Windows Magazine（JPN）	総情セ
Wired（JPN）	総情セ
映像情報：Medical	病中放
ザ・クインテッセンス：The Quintessence	医口外
デンタル・ダイヤモンド	医口外
Acta Neurologica Scandinavica	教治療
Annals of Neurology	教治療
Aqua（J.of Water Science Res.&Tech）	図土本
Australasian Agribusiness Review	農農営
Competition & Change	地政策
Agrafood Europe	農農営
Heterocycles（JPN）	農生有
International Journal of Bifurcation and Chaos in Applied Sciences and Engineering	工機械
International Journal of Fracture	図機械
Journal of Composites of Construction（ASCE）	図土木
Journal of Computational Physics	工情報
Journal of lnternational Food & Agribusiness Marketing	農農営
Journal of the Atmospheric Sciences	工共通
Journal of the Royal Society Statistical Society ：Ser.B	工情報
Magazine Litteraire	教生涯
Mechanics of Cohesive-frictional Materials	図土木
Neural Computation	工情報
Practice Periodical of Hazardous, Toxic and Radioactive Waste Management（ASCE）	図土木
	工情報
SIGIR Forum	工情報
CCOD： Life Science with Abstracts（MAC Ed.）	医解２
Drug Metabolism and Disposition	病薬剤
Glia	医脳外
Journal of Magnetic Resonance Imaging	医脳外
Pharmaceutical Research	病薬剤

〈購入中止雑誌〉

誌名	配架
科学朝日	養科学
河川	図土本
学校体育	養保体
機械設計	図機械
季刊女子教育問題	教家政
技術教育研究	教家政
技術教室	教家政
月刊トレーニングジャーナル	養保体
コーチングクリニック	養保体
思想	養独語
児童青年精神医学とその近接領域	図哲学
新砂防	図農業
森林組合	図林学
体育科教育	養保体
体育の科学	養保体
太陽エネルギー	農動力
地理（古今書院）	養地理
トランジスタ技術	教地学
日本教科教育学会誌	教家政
日本物理学会誌	教物理
年報：科学、技術、社会	養科学
農業経済研究	教哲学
美学	養英語
保健の科学	養保体
ラクビーマガジン	養保体
Japanese Journal of Sports Science（JPN）	養保体
アルコール研究と薬物依存	医分館
アレルギー	医分館
医学のあゆみ	医放射
ウイルス	医分館
衛生動物	医分館
解剖学雑誌	医分館
眼科	医分館
眼科臨床医報	医分館
看護教育	医短基
看護研究	医短基
関節の外科	医分館
感染症学雑誌	医分館
癌と化学療法	医放射
癌の臨床	医放射
寄生虫学雑誌	医分館
結核	医分館
月刊切り抜き：体育、スポーツ	医短保
月刊切り抜き：保健	医短保
月刊トレーニングジャーナル	医短保
産業衛生学雑誌	医分館
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	医分館
耳鼻咽喉科臨床	医分館
耳鼻と臨床	医分館
水道協会雑誌	医分館
生化学	医分館
調剤と情報	病薬剤
東京医学	医分館
糖尿病	医分館
東北整形災害外科紀要	医分館
日本医学放射線学会雑誌	医分館
日本医事新報	医放射
日本医真菌学会雑誌	医分館
日本衛生学雑誌	医分館
日本栄養・食糧学会誌	医分館
日本温泉気候物理医学会雑誌	医分館
日本化学療法学会雑誌	医分館
日本化学療法学会雑誌	医泌尿
日本眼科学会雑誌	医分館
日本気管食道科学学会報	医分館
日本胸部外科学会雑誌	医分館
日本外科学会雑誌	医分館
日本公衆衛生雑誌	医分館
日本細菌学雑誌	医分館
日本産婦人科学会雑誌	医分館
日本耳鼻咽喉科学会会報	医分館
日本消化器病学会雑誌	医分館
日本小児科学会雑誌	医分館
日本整形外科学会雑誌	医分館
日本内科学会雑誌	医分館
日本内分泌学会雑誌	医分館

日本泌尿器科学会雑誌	医分館
日本皮膚科学会雑誌	医分館
日本病理学会会誌	医分館
日本法医学雑誌	医分館
日本薬理学雑誌	医分館
日本輸血学会雑誌	医分館
日本らい学会雑誌	医分館
脳卒中	医分館
犯罪学雑誌	医分館
ビタミン	医分館
泌尿器科紀要	医分館
泌尿器科紀要	医泌尿
ホルモンと臨床	医分館
麻酔	医分館
民族衛生	医分館
薬学雑誌	医分館
薬局	医分館
リハビリテーション医学	医分館
臨床眼科	医分館
臨床神経学	医分館
臨床皮膚科	医分館
臨床泌尿器科	医泌尿
臨床病理	医分館
臨床薬理	医分館
労働科学	医分館
Audiology Japan（JPN）	医分館
Brain and Nerve	医分館
Congenital Anamalies（JPN）	医分館
Farm Tech Japan：ファームテクジャパン	病薬剤
Japanese Journal of Sports Science（JPN）	医短保
Radioisotopes	医分館
Sports Medicine	医短保
STD（JPN）	医泌尿
Acustica	工電子
AgExporter	図農学
American Journal of Clinical Pathology	図畜産
American Journal of Psychiatry	図哲学
Analytical Biochemistry	図化学
Berliner Munchener Tierarztliche Wochenschrift	図畜産
Biulletin' Gosudarstvennogo Komiteta Rossiiskoi Federation	教家政
British Journal of Developmental Disabilities	図哲学
Canadian Journal of Veterinary Research	図畜産
Computers & the Humanities	養英語
DTW	図畜産
Developmental Dynamics	図畜産
Earth Surface Process and Landforms	図物理
Ecological Modelling	図土木
Environment and Planning：B	図土本
Environment and Planning：C	図土木
Environment and Planning：D	図土木
Epa Journal	図土木
Essays in Criticism	養英語
Expert Systems with Applications	工情報
Farmers Weekly	図農業
Feed Situation and outlook Report（廃刊）	農農営
Forstwissenschaftliche Centralblatt	図林学
Francis Bulletin Signaletique 523	養仏語
Heat and Mass Transfer	図機械
Industrial Education	教技職
JOPERD	養体育
Journal of Applied Physiology	図畜産
Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Discriplines	図哲学
Journal of General Physiology & Society of General Physics	図畜産
Journal of Intellectual Disability Research	図哲学
Journal ofMagnetism and Magnetic Materials	養物理
Journal of Mathematical Physics	教物理
Journal of Physics： Condensced Matter	養物理
Journal of Speech and Hearing Research	工電子
Journal of Symbolic Computation	図情報
Journal of Veterinary Pharmacology and Therapeutics	図畜産
Language in Society	養英語
Linguistica Pragensia	養英語
Literatur	養独語
Mir Muzeia	教家政
NSS Bulletin	教地学
Nashe Nasledie	教家政
Numerical Heat Transfer：A	図機械
Numerical Heat Transfer：B	図機械
Osterreichische Forstzeitung	図林学
Physical Review：Ser.3B	養物理
Physical Review Letters（AIP）	養物理
Physi.cs tetters：Sec. A	養物理
Practice Periodical on Structural Design and Construction	図土木
Professional	教家政
Professional Engineering	図機械
Quarterly Journal of Economics	図社会
Research Quarterly Exercise and Sport	養体育
Resourse	図農業
Review of English Studies	養英語
Risk Analysis	図土木
SIAM Journal on Numerical Analysis	図情報
School Science Review	教物理
Schweizerische Zeitschrift fur Forstwesen	図林学
Science Teacher	教物理
Shkola i Proizvodctvo	教家政
Support for Learning	図哲学
Transportation Review	図土木
Vision Research	図教育
Word	養英語
Zur Wirtschaftlichen und Sozialen Lage in den Neuen（廃刊）	教地理
Acta Neurochirurgica＋Suppl.	医分館
Acta Ophthlmologica	医眼科
American Journal of Health - system Pharmacy	病薬剤
American Journal of Roentgenology	医放射
Analytical Biochemistry	医分館
Anesthegiology	医分館
Annals of Pharmacotherapy	病薬剤
Archives of Histology and Cytology（JPN）	医分館
Atherosclerosis	医分館
CCOD：Life Science	医解2
Cell	医分館
Chemical and Pharmaceutical Bulletin（JPN）	医分館
Clinical Biochemistry	医分館
Clinical Pediatrics	医分館
European Journal of Nuclear Medicine	医放射
Helminthological Abstracts（CAB）	医寄生
Internal Medicine（JPN）	医分館
International Journal of Hematology（JPN）	医分館
Japanese Circulation Journal（JPN）	医分館
Japanese Journal of Cancer Research（JPN）	医分館
Japanese Journal of Pharmacology（JPN）	医分館
Journal of Biochemistry（JPN）	医分館
Journal of Chromatography：A	医分館
Journal of Chromatography：B	医分館
Journal of Environmental Science and Health : Part C	医分館
Journal of Infectious Diseases	医泌尿
Journal of Neurosurgery	医分館
Journal of Nutritional Science and Vitaminology（JPN）	医分館
Journal of Oral and Maxillofacial Surgery	医分館
Journal of Orthopaedic Science（JPN）	医分館
Journal of Pediatric Surgery	医分館
Journal of Urology	医分館
Klinische Padiatrie	医分館
Magnetic Resonance in Medicine	医放射
Microbiology and Immunology（JPN）	医分館
Neurosurgical Review	医脳外
Okajimas Folia Anatomica Japonica（JPN）	医分館
Orthopedics	医分館
Pathology International	医分館

注：旧教養部（現在の地域科学部）で購入していた雑誌は、学部略称名を「養」で表示しています。

医学部分館を利用して

楊　文　毅（中国）

ある日、館報編集委員と図書係長から図書館について何かを書いてほしいと言われました。何を書いていいのかわかりませんでしたが、図書館を利用した時のことを思い出し、コンピュータに関して感想を書きます。

私が日本に来た時、医学部分館のコンピュータは文献検索ぐらいのことしかできませんでした。それは中国の大学図書館とだいたい同じですのでなんとかできました。しかし、最近数年来、コンピュータも時代の発展にのりたくさんの機能をもつ新しい機種が開発され、医学部分館にもそのようなコンピュータが設置されました。最初はとまどい、こわくて触る勇気もありませんでした。大学本部総合情報処理センター主催の講習を受け、コンピュータの基礎知識からインターネット、パソコン通信までいろいろ教えてもらいましたが、でも実際使う時にはそんな簡単ではありません。整形外科医局諸先生方と医学部分館のみなさんの暖かいご指導のもと、ご面倒をお掛けしながらやっと少しずつコンピュータが自分の意志に沿って働いてくれるようになりました。今ではコンピュータを自由に使うことができます。医学文献の検索、レポートの作成、実験データの統計処理、学会発表のスライド作りなど仕事の方でも大変役に立っています。ここで改めて整形外科医局諸先生方と医学部分館のみなさんに感謝を申し上げます。

このように私はコンピュータと良い友だちになりました。これからも時間があれば、e-mailを活用して友達との交流をより一層深め、また、ネットサーフィンもして、たくさんの情報を入手しながら、より充実した研究生活を送ろうと思います。今の時代、コンピュータはもう現代生活に欠かせないものになりましたので、みなさんもできるだけコンピュータと仲良くなりましょう。

（よう　ぶんき：医学部整形外科　大学院３年生）

幅広い要求に応える図書館

釜　淵　幸　司

研究室に入って以来、論文を集めたり専門書を借りたりして何かと利用する機会が増した図書館。今では欠かすことのできない存在となっている。しかし、私自身、ここ２年はよく利用しているものの、それ以前となると、多くても月に１～２度しか利用していなかった。

私は、「なぜ、こんなに図書館へ足を運ぶ回数が変わったのだろうか。」と思った。図書館へ足を運ぶ目的には、色々あると思う。私の場合、今は、研究を進めていく上で生じる疑問について調べるために専門書を借りに行くことが多い。

しかし、他の目的ではほとんど足を運ばない。以前はそうだった。私のような人は結構いるのではないかと思う。専門書を借りに行く事以外に何か目的があってもよいのではないか。個人的には、現在の岐大図書館には、学生個々の趣味や興味を深めるための本や雑誌が不足していると思う。ならば、図書館の主役である本を、もっとバラエティーに富ませたらよいのではないか。例えば、利用者が読みたい本や雑誌（おそらく、本屋の店頭に並んでいるような本や雑誌だろう）を導入し、これらの本の貸出や散読書の拡張などを行ってはどうだろうか。

図書館が我々の幅広い目的に応じてくれるなら、我々利用者はうれしい。そうなれば、多くの人が図書館へ足を向けるようになり、図書館をより身近に思うのではないか。また様々な分野の本に接する機会ももてることは大きな財産になるに違いない。これからも、私自身、何度も足を運ぶことになるであろう図書館。そのさらなる発展に期待したい。

（かまぶち　こうじ：工学研究科（修士課程））

図書館員から一言

大西隆司

私は絵が好きで美術館をよく覗くが、いま図書館に勤めてみて、何か共通点があるように思っている。それは施設が相当に似ていて深遠な雰囲気があり、その雰囲気から絵の質の高さや、蔵書の深さまでもが感じられてくるような気がする。さらにもうひとつには両館ともいろいろの原初的な情報の場であり、創造的な推敲を求めるに都合のよい場である。よりよい文化の場の創造を図りたい。

（おおにし　たかし：情報管理課長）

丸毛りか

平成８年５月より図書館情報管理課資料受入係へ採用となり、主に雑誌の受入をしています。

図書館に来てまず驚いた事は、利用者の隠れたマナーの悪さです。図書館は、公共施設であり皆のものです。図書館で飲食していて大切な本が汚れては大変ですし、本が元の位置に返っていなければ、探す人が困ります。こういう当たり前の事が守られるようになれば図書館はより良くなると思います。新入りでミスも多く落ち込む事も多い私ですが、早く仕事を覚えて、楽しくがんばりたいです。　（まるも　りか：情報管理課資料受入係）

お　知　ら　せ

・新OPACの利用について

平成９年２月の総合情報処理センターの機種更新に伴って、図書館電算システムが大幅に更新・変更されています。

利用者のみなさんに直接影響するOPAC（蔵書検索システム）については、業務システムからのリアルタイム更新、レスポンスの向上及びWWW画面からの検索（WWW版OPAC）が可能など機能が向上・追加されています。どうぞご利用ください。新OPACの操作方法については、次号以降の館報で紹介する予定です。

・本学関係図書等の展示について

このたび、図書館本館入り口フロアー（２階）に、本学教官が著作・編集・刊行等に関係したもので図書館に寄贈された図書や本学発行の広報資料等を展示するコーナーを設けました。ご利用ください。

・自然科学系図書資料の紹介

自然科学系図書資料として文部省の予算により次の図書を本館参考図書コーナーに配架しましたので、ご利用くださるよう案内いたします。

Landolt-Börnstein : Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology, New Series.

Group I (Elementary Particles, Nuclei and Atoms)

（ランドルト・ベルンシュタイン数値表，第１群：原子核・素粒子物理学）13巻－14巻

・投書箱のご要望から

本館投書箱に寄せられた皆様からの最近のご要望をご紹介します。

ひとつは、本館散読室に新聞の折り込みチラシもおいてほしいとのご要望が寄せられました。早速チラシを置きましたので、どうぞご利用ください。

もうひとつは、CD-ROM版Journal Citation Reports SCI編（Science Edition）を利用したいというご要望がありました。これは、既に医学部分館ではスタンドアロン方式で利用できるようになっていますが、本館ではまだ直接利用することはできません。今後検討していきたいと思います。

なお、このCD-ROMは、自然科学分野の専門タイトル4,500誌をカバーして、文献間の引用関係を雑誌単位で集計し数値化したもので、学術雑誌の評価や特徴などの調査もできます。

図書館では、これからも皆様の声をお待ちしておりますので、ご意見をお寄せ下さい。

岐阜大学附属図書館報「寸胴」第21号　1997年２月28日
編　集　委員長：梶山雅史　委員：佐藤貴裕，杉江茂幸，佐々木重雄，青木利根男，村上喜廣，上口正昭
発　行　岐阜大学附属図書館
〒501-11　岐阜市柳戸１番１　☎058-293-2184